

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0671100337		
法人名	ふるさと企画		
事業所名	グループホーム大手町		
所在地	山形県新庄市大手町2番83号		
自己評価作成日	令和 2年 7月 31日	開設年月日	平成 16年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓から花火や祭りの山車が見える等恵まれた環境にあり、近くには、市民プラザや図書館、歩いて行ける最上公園があり催し物や地域交流に気軽に参加できる。又、同町内にあるグループホーム大手町和心との交流、協力体制も整っている。現在、外出が難しくなっている為、少人数でのドライブに出掛け、季節を感じ気分転換を図ったり、ホームでは一人ひとりの趣味や好きな事を行い、不安やストレスの解消をしつつ生きがいを見出し、楽しみを持って生活をしています。普段からご家族様との情報交換を密に行い、思いや不安に耳を傾けながら信頼関係を築き、「共に笑ってつながって」の理念の元、利用者様には笑顔あふれる穏やかな暮らしをお手伝いさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「共に笑ってつながって」をいつも心に留めて、利用者のやりたい事や好きな事など何でも一緒に行いながら、きめ細やかな関わりで笑顔ある暮らしを支えています。感情をうまく表出できない方が皆の笑いに誘われて声を発して共に喜ぶ姿もあり、コロナ禍で自粛生活が続く中、同法人「グループホーム和心」との交流や玄関先でのお茶飲みで気分を変えてもらい、旬の食材を使った希望メニューも取り入れるなど「皆で楽しく」を心掛けています。また研修の機会を多く持ち、全員が同じ方向性をもって統一したケアで支援できるように努め、特に今年は感染症対策により力を入れて学び予防と対応策を身に付けて、安心・安全なサービスの提供に取り組んでいる事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2年 9月 17日	評価結果決定日	令和 2年 10月 9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホームリビングに提示し、全職員が意識するようにしている。ホーム便りや運営推進会議での資料にも毎回、理念を載せ確認している。	理念は折りにふれ、いつも目に留めて確認しながら、日々の関わりに活かしている。利用者に寄り添い何をするにも行動を共にして思いや感情を呼び起こし、一緒に笑い合える暮らしを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の資源回収に協力、町内の芋煮会や保育所の夏祭りに招待して頂いている。年一回は避難訓練に近隣住民、また町内の青年会の人から参加して頂いている。	町内とはふだんから回覧板や挨拶を交わし合い、避難訓練時に協力をもらうなど顔なじみの関係ができています。コロナ禍で家族との面会や外部との接触が困難になっているが、早く日常的に交流できる日が来ることを待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時介護相談受付中ののぼりを立て、無料相談会を開催している。玄関にはAED設置のステッカーを貼り、市のHpにも登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、サービス状況の報告は毎回行い、テーマを変えて二ヶ月毎に行っている。市の担当者、認知症支援推進員、区長、家族の方々の意見を聞ける貴重な場となっている。今年度は書面にて行い、感想をいただいている。	会議はその時節に合った話題を提供して参加者との意見・情報交換の場になっている。今期は市町村の福祉課や地域包括支援センターに書面で利用者状況や活動報告をして感染症対策しながらの運営に理解をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加してもらい、利用者の状況や近況報告をしている。定期的に空き情報を報告し、緊急の受け入れも行っている。	行政とは常日頃から情報やアドバイスをもらうなど良好な関係を築いており、コロナ禍においては書面でやりとりをして意見を聞いている。また市の感染症対策の研修に参加して予防策などを学び所内の研修に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	建物の構造上玄関が見えず施錠をしている。2F入り口は一時的に(ショート対応、不穏時)に危険と思われる時のみ施錠し、様子を見る事もある。全職員に身体拘束排除マニュアル研修を行っている。	利用者の立場に立った介護をめざし、自分がされた時にどうか自問自答してケアにあたっている。所内では介護の基本から学ぶ機会を設け、初心に立ち戻り認知症を理解して安全で不安のない暮らしができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルにて周知している。職員同志連携を密にして注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーの研修資料で学びながら相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の写しを事前に渡し、目を通してもらっている。契約前、契約時、契約後も疑問点には説明を行っている。改定時の説明は書面にて行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見、要望は家族にも知らせサービスに生かしている。運営推進会議でも取り上げ外部への公表の機会を設けている。又、利用者の状態の変化には個別に面談をし、不安や本意を聞いている。	毎年家族アンケートで「安全・安心できているか」「職員の対応はどうか」「家族会行事への要望」「一緒に食べた食事の思い出」などを聞いてサービスに反映させている。また定期的に写真入りのお便りで近況を知らせ、面会制限の中では電話で声を聞かせている方もいる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案を聞き、その都度適切に対応している。又、法人内での情報の共有の為、合同主任会議も月一回行い、足並みを揃えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、特定処遇改善手当を新設し、更なる賃金改善を実施している。また小中高生を対象とした職員の子・孫に働く姿を見てもらう企画では、仕事のやりがいを伝えることができた。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修を受ける機会が少ないが、所内研修にWebを活用した研修の機会を設けている。	年間計画で研修の機会を設け、今年は感染症対策により力を入れて学習し、予防や対応策が身に付くよう取り組んでいる。また介護の基本を改めて学び、認知症ケアの理念を根底から問い直す研修も行い、統一したケアをめざし研鑽を積んでいる。	定期的に所内研修も行われ職員の質向上に取り組んでいることから、サービス評価を日頃の点検の機会ととらえ事業所全体で話し合う素材に活かすことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	三ヶ月毎に行っている最北地区グループホーム連絡協議会で、今年度は書面ではあるが情報交換を行っている。	最上地区7事業所のグループホーム連絡協議会「おらだの会」に管理者が参加して意見・情報交換しながらサービスの質向上を図ると共に、処遇改善などにも役立っている。また外部研修や交換実習を職員の交流の場にしてケアや業務に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に各専門職の方々からの情報や、家族からの事前面談での家庭での暮らし、ライフストーリー等の情報を得ている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に、これまでの経過・要望等を傾聴し、十分な話し合いを持ち共感し、信頼関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の事情や、緊急的に本人の情報も理解出来ずに入居に至ったケースもあったが、入居後に本人と向き合い対応に努めた。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への支援、また一緒に行う事で本人の自信につながり、お互いの信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近の様子を伝え、家族との対話を心掛けている。遠方の家族の方へは電話にて状態を伝え、行事の時の写真を送ったり、今年後は写真入りで対応している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのパーマ屋さんに行き会話を楽しみ、通院時は病院の売店でお菓子を購入したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の得意とすることを把握し、不得意としている利用者の傍に寄り添い一緒に作業する事で、利用者同士が円滑になるよう支援を行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービスを利用していた家族より、イベントに参加して頂いたりと交流を図っている。また、契約終了された家族より相談された際には親身に対応にあたっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の要望や、ヒストリーを元に本人の趣味やしたい事、出来る事を見出し、本人の希望に添うような支援を心掛けている。	日常の会話の中から、また居室や入浴時など1対1で話が聞ける時にやりたい事や好きな事など思いや意向の把握に努め、できることで自信や達成感を味わってもらっている。様子や状態の変化に気を配り、職員皆で共有してプランにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーから情報をもらい、入居後もアセスメントシートを用いて情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や日々の引き継ぎから、本人の状態を細かくチェックしている。またアセスメントシートも定期的に見直している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアプランチェック表を基に、更新前に個別支援会議を行い、評価や改善点を話し合っている。家族来所の際、確認、意見を聞くようにしている。	入居時の家族等やケアマネージャーからの情報と居室担当者の状態把握の記録を基に、利用者の思いに沿った介護計画を作成している。半年毎に個別支援会議を開いて皆で評価し見直しや継続を検討して現状に即したプラン作りを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、健康観察記録、ケアプランチェック表を日々記録し活用。情報の共有を行っている。また情報ボードを活用したり、口頭での情報を行いケアの統一を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	出張理容の活用と近隣の保育所との交流を図っている。防災訓練では近隣の住人の方も参加してくれる等支えられている。毎年町内の芋煮会にも招待を受けている。			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	ホーム協力医だけでなく、本人、家族の希望に合わせて主治医を決めている。定期の往診、通院の他、状況により専門医の受診、付き添いも行っている。	希望に合わせ殆どの利用者が毎月協力医の往診を受け、かかりつけ医へ通院の方には看護師が付き添っている。受診結果は変化が見られた場合は家族等へ知らせ、また年に2回健康診断を行い結果を報告し安心につなげている。		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	介護員の気づきを伝え、診てもらおうようにしている。情報を共有した上で協力医に指示を仰ぎ、連絡調整を行っている。			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	緊急時以外は協力医の紹介状を持参し、入院までの経過報告と情報提供を行っている。また入院中も週一回は病院訪問を行い、状態の把握に努めている。			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	契約時に契約書を基に説明を行っている。看取りの前段階までの支援を安全に行える様、医療機関、家族と相談の上支援の在り方を検討している。	身体低下で口からの摂取などが困難になった場合は主治医の指示を仰ぎ、病院への紹介や他施設の入所などを選択してもらい利用者・家族等の意向を大切にしている。百歳近くの方もおり、無理なくできる限り長くホームで安心して過ごせるよう支援している。		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時対応マニュアルを設け、救急時には職員一人一人が即座に対応できる様訓練している。夜間帯は和心からの協力を得るよう、対応マニュアルを基に話し合いを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に三回の避難訓練を行い、昼夜の対応を確認している。訓練には近隣住民や、和心からの協力も得るようにしている。	訓練では通報・初期消火・誘導など慌てずにできるよう意識し、10月には2階からの車椅子昇降訓練も予定されている。今年度はコロナ禍により地域の参加は得られていないが協力体制はできており、非常時の持ち出し物や備蓄は一覧にして毎月確認し有事に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのヒストリーや、家族での暮らしを考え、プライドを受け入れた話し方や対応を行っている。	利用者の生活歴を念頭におき、得意な事など教わる機会もあり、日頃から尊厳を大切にしたい関わりをしている。特に入浴や排泄時の声かけにも配慮し、気になる対応が見られる場合は互いに注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる様工夫した問いかけをしたり、しぐさの見極めをしながら、本人の意見を待つ様心掛けしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のやりたい事を、やりたい時間に行ってもらい、TVを観たり、会話を楽しんだり職員付き添いの元、自由に過ごしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの衣装を入浴前にセットしたり、一か月半に一回の出張理容を利用したりと見出しなみを整えている。またなじみの美容室に出掛けたりと自由にしてもらっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人が出来る事を行い、食事準備や後かたづけを協力して行っている。	旬の食材や彩り・盛り付けに拘り食材の配食サービスを利用し手づくりで提供している。毎月ホームメニューとしてパン食など利用者の希望を取り入れ、皆で食卓を囲み賑やかな風景をくり広げている。好き嫌いの方も少なく芋煮や炊き込みご飯などが喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉施設向けの配食サービスを利用し、栄養のバランスの取れた食事を提供している。水分補給も決まった時間の他、随時体調に合わせて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けを行い、介助が必要な方は、準備、見守りを行い、職員付き添いの元行っている。必ず最終確認を行い、状態把握に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄を習慣づけ、失禁を軽減できるよう努めている。	一人ひとりのパターンを共有し、声がけに配慮しながら食事前など誘導を行い排泄の自立につなげている。退院時オムツ使用だった方が細目な対応でリハビリパンツになった例もあり、夜間もできるだけトイレでの排泄を大切に支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を把握し、下剤の管理を行っている。また乳製品の摂取や、水分を多めに摂取して頂くなどし便秘予防に努めている。また歩行運動も兼ねて運動を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴日以外にも、発汗や失禁等汚染時にも勧めている。湯あたりに注意しながら、見守りの元楽しんでいただいている。	入浴は希望を大事に時間帯や湯温・シャワー浴など個浴で本音が聞ける場にもなっている。拒む方も見られず、転倒防止や湯上りは水分補給を行うなど安全・身体面にも気を配り、時には入浴剤を使用し楽しみながらゆったりとくつろいでいる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った空調管理に気をつけ、過ごしやすい環境作りを行い、安眠に繋げている。また寝具類の清潔を保ち、気持ちよく眠れる様支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を把握しやすいよう、様式にまとめ、確認できるようにしている。体調の急変があった際には、協力医に指示を仰ぎ迅速に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあること、得意なことを把握し、縫物や次の日のメニューを書いていた。誕生会やホームメニューで食べたいものを提供したり、別階での体操にも参加している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の状況では、外出支援は難しい為、通院時にドライブしたりしている。外出できない為、季節ごとの行事をホーム内で行い、少しでも気分転換が図れるよう支援している。	外出はコロナ禍で困難であるが体操で体を動かしたり、交替でドライブに出かけ、実りの田んぼを眺めるなど季節を感じてもらい気分転換を図っている。外気浴を兼ねてホームの周りに植えたミニひまわりをバックに皆で写真撮影して笑顔につながっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の所持は禁止している。ご家族から現金を預かっている方もいるため、本人の希望にて買い物を行ったりしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が時間的に余裕のある頃合いを計りながら、電話で話ができるように支援している。携帯電話を持っている方は居室にて、家族と自由にやり取りできるようにしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が落ち着く居場所を提供し、リビングで過ごしやすい工夫をしている。季節にあわせて張替えできる装飾を作成し、共用の空間でも落ち着いて過ごせるよう支援している。	日中直線廊下を歩いて機能訓練する方もいたり、リビングの好きな場所で思い思いに過ごしている。創作品や季節に合わせたぬり絵などを掲示し、互いに「上手だね」の会話で喜ぶ姿がある。手すりの消毒の徹底や温・湿度の管理を行い感染症にも留意している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がソファーに座って会話を楽しんだり、食堂の席で過ごしたりと、家具の配置を考え、心地よく過ごして頂けるような支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>見覚えのある道具や使い慣れたものを置いたりしている。また家族や行事の写真を飾ったりして、自分の為の居室で安心して過ごせる工夫をしている。</p>	<p>慣れ親しんだソファなどを持ち込み、ナースコールの位置やエアコンなど直接顔に当たらないようベッドの向きに配慮している。また利用者の動きに合わせて動線を確認しベッド柵の消毒など感染症対策しながら安心安全に暮らせる居室づくりをしている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレへの目印をつけたり、手すりやテーブルにかまって自立してトイレに行けるよう、安全に考慮した配置をしている。</p>	/	/